

# 民主化闘争情報

818

2011年2月24日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

2月21日の衆議院予算委員会で自民党の平沢勝栄議員が質問に立ち、JR総連からの献金問題や浦和電車区事件、田城郁参議院議員の問題など多岐にわたって、政府の見解を問い質した。

## 衆議院予算委員会で追及が続くJR総連革マル問題vol.3

### 枝野長官「あらぬ疑いをかけられるのは心外なので献金は頂かない」

今号では前号に引き続き、JR総連からの献金問題などに関係する質疑の概要を掲載する。なお、今回の質疑はインターネットの「衆議院TV」において動画を閲覧することが可能である。

(平沢議員) 総理はJR総連から献金を貰っているんですか、いないんですか。

(菅内閣総理大臣) 2009年に一度だけ20万円支部にいただいております。

(平沢議員) これは、総理、返すおつもりはありませんか。

(菅総理) この労働組合は連合加盟の労働組合で、私も連合の皆さんとはきちんとしたお付き合いをしております。そうしたことも含めて応援の気持ちで寄付をいただいたと思っておりますので、返すという予定はありません。

(平沢議員) 官房長官は1996年から2009年までこの組合から794万円受け取っているんですね。官房長官、前に答弁されました、これは受け取ったけど、今後は「季下に冠を正さず」ということで、今後は献金を受けないとおっしゃいました。この「季下に冠を正さず」とはどういう意味なんですか。

(枝野官房長官) 昨年5月の質問主意書でお答えをしたように、当該組合と決してイコールではありませんけれども、当該組合の中にそうした方がいるということは、内閣としても認識しているところでございますので、そうした方との関係の疑いを持たれるのは本意ではありませんので、従って、今後はそうしたことについてお申し出があったとしてもお断りしようということをお断りしたところでございます。



(平沢議員) JR総連の前委員長はこう言っているんですよ。2月4日にJR総連の中央委員会が開かれたんです。ここで何と言っているかということ、「何とかという官房長官、何とも情けないことに、我々が応援している何とかという官房長官が『季下に冠を正さず』などと証言したのである。つまり、疑わしいところからは、今後、金をいただきません、というということを証言したのである。許し難い行為である。民主党などに今後抗議していかなければならない」と。これを来賓として来たJR総連の前委員長が言っているんです。だから返せないんじゃないんですか。

(枝野長官) 私が当該組合と必ずしも特別な関係ではないということについて、今、そちらからお話をいただいて、たいへんありがたいと思っておりますが、私は従来から自分の政治姿勢、政治信念に基づいた行動をとってきておりますので、特定の団体に影響を受けるようなことは、一切を受けずにやってきております。なおかつ、これまでいただいた政治献金等については、政治資金規正法に基づいて、当該連合加盟の適法に存在する団体から適切な範囲内でいただいたものでありますので、それをお返しする必要はないと思っておりますが、今後については、あらぬ疑いを掛けられるのは心外ですのでいただかない、ということでございますので、決して矛盾するものではないと思っております。



今回の質疑に関しては、2月22日の朝日、読売、産経各紙が報道するなど、マスコミも高い関心を示している。平沢議員は、「これからも引き続き質問を続けさせて頂きたいと思う」と述べて、質問を終えたように、「JR総連への革マル派浸透問題」に対する追及が止む気配は見えない。

民主党は自浄能力を発揮し、JR総連との関係を清算すべきである！